社会的養護にある児童への包括的性教育に関する研究

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科
准教授　古川　洋子
研究分野：助産学、母子保健、児童福祉

■概要

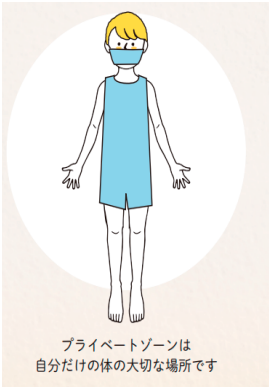
思春期児童の性に関する健康問題は、複雑多岐化する一方である。性教育は、学習指導要領の改訂により教科内容に位置づけられ、各学校の裁量でおこなわれている。学校のみならず、社会的養護施設で行う性教育は、福祉職員等の裁量で行われていることが少なくはなく、いまだ明確に示されていない。社会的養護下にある児童への性教育から包括的性教育、中でもプレコンセプションケア(妊娠前からのケア)教育を実施することは早急に必要となっている。子どもたちが安全に健康に過ごすための支援について研究を進めている。

「『プレコンセプションケア』によって、女性やカップルがより健康になること、元気な赤ちゃんを授かるチャンスを増やすこと、さらに女性や将来の家族がより健康な生活を送れることを目指します。・・健康な生活習慣を身に付けること、それは単に健康を維持するだけではなく、より素敵な人生を送ることにつながる」

国立成育医療センターHPより

「児童自立支援施設に併設された学校における性に関する健康教育プログラムの開発」に関する研究（研究代表者　古川）では、児童自立支援施設に入所する児童に対し、施設職員と助産師が共にプログラムを検討して行った。課題として、入所中の指導から退所後の児童の健康支援につながる内容の見直しが示唆された。







「児童自立支援施設に併設された学校における性に関する健康教育プログラムの開発」研究で用いたリーフレットの一部である